様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(S)
研究期間：2014～2018
課題番号：２６２２０４０２

研究課題名（和文）マルチアーカイヴァル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究

研究課題名（英文）Researching the collection and utilization of overseas Japan-related sources through multi-archival methods.

研究代表者
保谷　徹（HOYA, TORU）

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：６０１９５５１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　161,200,000円

研究成果の概要（和文）：東京大学史料編纂所が、国際的な支援を得て収集した16－19世紀の在外日本関係史料マイクロフィルム2739本165万コマをデジタルアーカイヴ化した。さらに9つの重点チームによるマルチアーカイヴァルな海外史料の調査・研究を実施した。新たに追加した史料群は68万コマとなり、総計で世界22か国66機関の海外史料計233万コマのデジタルアーカイヴを構築し、史料編纂所の閲覧室でデータベース公開している。なお英国外務省文書（FO46・FO262）52万コマは、横浜開港資料館の端末からも閲覧に供している。本研究で実施した国際研究集会は計17回、発表した論文数は計122本、学会報告174件、著書18件である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
海外に所在する日本関係史料マイクロフィルム（主として各国文書館が所蔵する外国語史料）をデジタルアーカイヴ化したことの学術的意義は大きい。ロシア、中国、ハワイ、ドイツ、南欧などを対象とした重点研究チームにより、新たな史料収集と分析をおこない、マルチアーカイヴァル・マルチリンガルな日本史研究の成果を挙げることが出来た。また、在外日本関係史料のデジタルアーカイヴは、今後とも研究資源として利活用されることが期待できる。海外での新たな日本史史料の発掘は、社会的にも大きな反響を呼び、新聞・ＴＶなどで何度も取り上げられた。オーストリアの写真史料やハワイ史料の調査成果として展示会も予定され注目を集めている。

研究成果の概要（英文）：Historiographical Institute of the University of Tokyo holds 2739 reals (1.56 million images) of 16-19 century Japan-related documents by microfilms, collected from Foreign countries with international support, and we have constructed a digital Archive of these through this research. Furthermore, we made multi-archival survey and analysis of the historical materials by nine research teams. Each project has achieved various results, and the newly collected and digitally archived archives have reached 680,000 images, totaling 2.33 million images in 70 archives of 22 countries. The total number of international research meetings conducted in this research was 17 times, and the number of published papers was 122 items, 174 verbal communications and 17 books.

研究分野：日本史学

キーワード：日本史　海外史料　歴史情報学　デジタルアーカイヴズ　対外関係史　外交史

１．研究開始当初の背景

研究代表者らが所属する東京大学史料編纂所では、戦前期から海外史料の調査･収集を開始し、戦後は日本学士院の委嘱をうけ、海外諸機関が所蔵する日本関係史料の収集をおこなってきた。16 世紀から 19 世紀末にかけての、イエズス会や東インド会社、各国の外務省・植民省・海軍省文書などの外国語史料群であり、海外史料マイクロフィルム 2739 リール（当初見込み 150 万コマ）であった。海外史料に目配りしたマルチアーカイヴァルな史料研究は、世界史のなかの日本史を構築するためにも不可欠な視点であった。

1990 年代末には、研究代表者らはそれまで不十分だったロシアや東アジア諸国の史料調査に取り組み、先行研究「前近代東アジアにおける日本関係史料の研究」（科学研究費補助金・基盤研究(A)、H15～18、研究代表者：保谷 徹）、「東アジアの国際環境と中国・ロシア所在日本関係史料の総合的研究」（同基盤研究（A）、H19～22、研究代表者：保谷 徹）では、東アジア所在日本関係史料の全体状況を押さえ、ロシア・中国に所在する日本関係史料について 3 冊の史料目録を刊行した。その後、「ロシア・中国を中心とする在外日本関係史料の調査・分析と研究資源化の研究」（同基盤研究（A）、H23～26、研究代表者：保谷 徹）では、デジタル画像を含む各国文書館の一次史料の複製数万コマを収集し、海外史料の研究資源化に着手した。

この一方、研究代表者らが参加した「史料デジタル収集の体系化に基づく歴史オントロジー構築の研究」（同基盤研究（S）、H20～24、研究代表者：林 譲教授）によって、東京大学史料編纂所が収集した国内史料（マイクロフィルム）約 500 万コマのデジタルアーカイヴズ化と検索閲覧システムの開発がおこなわれた。記録媒体がフィルムからデジタル仕様に変化するなか、海外史料についてもデジタルアーカイヴ化が必須の課題になっていた。

２．研究の目的

先行研究で構築したデジタルアーカイヴを継承しつつ、海外史料（外国語史料）150 万コマを搭載するため、新たなファイルサーバに収めて最適化研究を実施し、海外マイクロフィルムからスキャニングしたデータにメタデータ（目録情報）を付与したデジタルアーカイヴズを構築し、国内の史料群と海外の諸文書館の史料群を横断的に検索できるように整備する。次に、構築したデジタルアーカイヴズを活用し、さらにデータの充実をはかるために、重点的な研究プロジェクトを設けて、在外日本関係史料の補充ないし新規調査と収集・分析をはかる。重点的な研究プロジェクトとして、16 世紀から 19 世紀にかけての対外関係史・対外交渉史をめぐる９つの重点課題を設定して研究を推進する。日本関係史料に関する国際研究集会の開催と共同研究を実施し、収集した史料群および目録情報等の学術資源をデジタルアーカイヴズ化することによって、ひろく市民・研究者へ公開し、利活用をはかることを目的とする。

３．研究の方法

歴史学の基礎は、素材となる史料の調査・収集が支えている。日本史の史料には外国に所在する日本語の史料、あるいは現地の外国語の史料も含まれ、こうした海外に所在する史料（在外史料）の調査・収集は欠かせない。国内史料のみならず、諸外国の史料群を用いて複数の視座から史実の解明を目指すマルチリンガル、マルチアーカイヴァルな手法、すなわち複数の国々の言語によって記された史料群に目配りし、複数の史料保存機関（文書館）の史料調査を前提にした研究手法が、新たな日本史研究に不可欠なものになっている。

本研究では、まずデジタルアーカイヴズ構築班を設け、史料編纂所が所蔵する海外マイクロフィルム 2739 本のデジタル化、「正続通信全覧」（外務省外交史料館所蔵）をはじめ、基幹的な外交史料集（編纂物）のデジタル撮影を進め、②既存の国内採訪史料 500 万コマに加え、上記史料画像データと新規収集した海外史料データを格納するデジタルアーカイヴズを構築し、③史料画像に対してｉ）ファイル単位の簡易目録データをすべてに付与し、ii）史料一点毎の詳細目録データ付与を試験的におこない、東京大学史料編纂所の閲覧・検索システム（Hi-CAT Plus）で公開利用をおこなう、④海外の多言語史料に対応するための諸問題の解決など、情報学の専門研究者を交えてシステム開発をおこなうものとした。

次に、下記のような重点課題ごとにそれぞれ実績のある 9 つの重点研究チームを設定し、マルチリンガル、マルチアーカイヴァルな補充調査とプロジェクト研究を遂行するものとした。進捗状況評価時に指摘があった研究組織全体の調整についても、研究分担者間の役割分担に留意して見直しを進めた。

４．研究成果

１）デジタルアーカイヴズ構築については、海外史料マイクロフィルム 2739 本分 165 万コマすべてをデジタル化し、簡易目録による登録が完了した。すでに東京大学史料編纂所の Hi-CAT Plus で公開利用に供している（閲覧室端末からの公開）。また、イギリス国立文書館所蔵英国外務省対日一般外交文書（FO46）およびオランダ語史料の一部等について重点的に詳細目録を付与した。英仏史料の追加分や外務省外交史料館が所蔵する「正続通信全覧」・「外交公文」、ポルトガル国立文書館の「モンスーン文書」、ハワイ州立文書館所蔵ハワイ政府文書、中国第一歴史档案

館所蔵日本関係文書、さらに帝政ロシア、ドイツ連邦文書館の日本関係史料など、本研究で新規に撮影・収集した史料画像約 68 万コマをサーバへ追加し、Hi-CAT Plus での公開利用を開始した。本研究で構築したデジタルアーカイヴは計 233 万コマとなった。また、英国外務省文書（FO46・FO262）52 万コマについては、横浜開港資料館と連携して同館端末からも閲覧可能なものとしたことが特筆される。

２）重点研究プロジェクトでは、①【ロシアⅠ班】ロシア国立歴史文書館（所蔵 700 万ファイル）、同海軍文書館（所蔵 140 万ファイル）との研究協力協定にもとづき、計 7 回の「日露関係史料をめぐる国際研究集会」を開催した。18 世紀以来の貴重な海図類を含め、両館が所蔵する帝政ロシア政府史料のデジタル画像収集をおこなった。海軍文書館所蔵日本関係史料解説目録２を刊行した。歴史文書館については、東アジア三国に関係する史料目録 2 件を作成した。②【ロシアⅡ班】ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所との協定にもとづき、同研究所が所蔵する日本人商人とサハリンアイヌとの交易帳簿の翻刻・ロシア語翻訳研究にあたった。訳文点検作業もほぼ完了し、刊行へ向けて最終段階に入っている。アイヌとの交易帳簿では最古の史料（1805～6 年）であり、サハリン（樺太）では唯一の史料として社会的関心も高い。③【ロシアⅢ】北海道大学アイヌ・先住民研究センターと連携した谷本晃久教授のチームで、ロシアにおけるアジア博物館･露米会社旧蔵書や樺太旧蔵書のコレクション形成史に取り組んだ。この成果は、国際研究集会等で発表され、大きな注目を集めた。ロシアⅠ班と連携した松前藩蝦夷地奉行文書（ロシア国立サンクトペテルブルク図書館所蔵）の発見も話題を呼んだ。④【欧米補充調査班】⑤【古写真班】史料編纂所の古写真研究プロジェクト（保谷代表）と連携し、英仏の補充調査をおこない、日本・スイス修好 150 年記念展示「日本を想う」開催（ヌーシャテル市、2014 年 7 月～翌年 4 月）や展示図録刊行に参加して写真図録を刊行した。また、イギリス（V&A 博物館）、フランス（ナダールの肖像写真群）、オーストリア（写真家ブルガー＆モーザー・コレクション）等における湿板写真ガラス原板の調査・収集（高精細デジタル撮影）と解析を進め、最後のものは写真史料集を刊行した。学術的・社会的注目も高く、新聞・ＴＶで取り上げられ、放送大学でも番組化した。⑥【中国班】中国国家博物館との倭寇図像をめぐる国際共同研究の成果が、チームリーダー須田牧子助教（東京大学史料編纂所）によって、図録『描かれた倭寇「倭寇図巻」と「抗倭図巻」』と論集『「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ』にまとめられた。ともに高い学術的評価をいただき、社会的な反響も大きかった。3 回の「倭寇と倭寇図像をめぐる国際研究集会」を開催し、継続的にこの主題に迫っている。また、中国第一歴史档案館等の調査研究を実施し、担当した特任研究員彭浩氏（現大阪市立大学准教授）の著作が第 85 回日経・経済図書文化賞を受賞している。⑦【ドイツ班】条約改正史をターゲットにした東京大学大学院法学政治学研究科五百旗頭薫教授のチームにより、ドイツ連邦文書館（ベルリン市）、同軍事文書館（フライブルク市）等での史料調査の実施と複製収集をおこない、収集史料約 8 万コマ分の Hi-CAT Plus への搭載を実施した。日独関係では、国立歴史民俗博物館の展示会（2015 年）にも協力した。⑧【ハワイ班】国立歴史民俗博物館原山浩介准教授のチームにより、日本・ハワイ関係史やハワイ移民史の欠落を埋めるべく、ハワイ王国政府の公文書や大学アーカイヴズ、個人史料の調査・研究を進めた。ハワイ州立文書館が所蔵するハワイ政府外務省文書や内務省移民関係史料約 1.１万コマをデジタル撮影で収集し公開した。⑨【南欧班】東京大学史料編纂所岡美穂子准教授のチームにより、ポルトガル国立公文書館と協定を締結し、インド副王政府下で管理された行政文書群であるモンスーン文書計 5.6 万コマのデジタル撮影データを収集した（全 60 巻）。このうち１～30 巻分について英文目録を作成して刊行した。以上、各プロジェクトでは、これまで手薄だった各国・各地域での着実な史料収集と研究の成果をあげ、史料研究の成果を論文・著作の発表や学会報告などで発信し、多彩な研究成果を生み出している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 122 件）うち主要なもの 41 件（国際研究集会報告は『東京大学史料編纂所研究紀要』参照）

1)岡美穂子「16 世紀「大航海」の時代とアジア」秋田茂編『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房、71～120 頁、査読無、2019 年 4 月

2)保谷徹「東京大学史料編纂所における在外日本関係史料の研究資源化への取り組み／Turning Overseas- Japan-related Historical Materials into research Resources at the University of Tokyo’s Historiographical Institute.」国立歴史民俗博物館編『異文化を伝えた人々—19 世紀在外日本コレクション研究の現在、／Transmitters of Another Culture-Research on Japan-related Overseas Collections from the 19th Century 』臨川書店、査読有、21-32 頁／217-228 頁、2019 年 3 月

3)4)5)横山伊徳「オランダ総領事デ・ウィット月例報告 1860 年～1863 年（1～3 完）」『東京大学史料編纂所研究紀要』28～30 号、査読無、pp.1-21／41-61／75-101、2017～19 年 3 月

6)横山伊徳「一国史を超えて　アジアの中の明治」『創られた明治、創られる明治』（岩波書店）、pp.97-111, 査読無、 2018 年 12 月

7)保谷徹「在外日本関係史料の調査・収集と研究資源化の研究―日本学士院 UAI 関連事業との関わりで―」（日中韓三か国語）『第 5 回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議報告書：アジア歴史資料の編纂と研究資源化』東京大学史料編纂所、査読無、2018 年 10 月

8)五百旗頭薫「貪欲の報い―ドイツ史料から見える条約改正史」『歴博』第 209 号（2018 年 7 月 20 日）査読無、2～5 頁。
9) Тору Хоя, ‘Знакомство,’”ЯПОНО-РОССИЙСКИЕ ОТНОШЕНИЯ,” 日露関係：写真でみる歴史、査読無、2－3 頁、外務省ロシア交流室、2018 年。
10)保谷　徹「国際法のなかの戊辰戦争」保谷徹・箱石大ほか編『戊辰戦争の新視点』上、吉川弘文館、査読無、2-24 頁、2018 年 3 月
11)麓　慎一「ロシアから見た戊辰戦争」保谷徹・箱石大ほか編『戊辰戦争の新視点』上、吉川弘文館、査読無、45-60 頁、2018 年 3 月。
12)谷本晃久「北の「異国境」―幕府外交の転換とアイヌ史上の画期」高埜利彦編『日本近世史研究と歴史教育』査読無、100-141 頁、山川出版社、2018 年 3 月
13)岡美穂子,"Nanban Trade and Shuinsen Trade in 16th and 17th Century Japan", Perez Garcia, M. & De Sousa, L. (ed), Global History and New Polycentric Approaches, 査読有、163-182、Palgrave Macmillan、Jan 2018
14)Mamoru Shibayama, Susumu Morimoto, Akiko Tashiro, Akihiro Kameda, Taizo Yamada, Shoichiro Hara: Building an Ontology-Oriented Archaeological Knowledge-Base “ArcOnBase” in Mainland Southeast Asia, proc of PNC2018, 2018. （査読有）
15)横山伊徳「日本開港とロウ貿易―オランダ貿易会社を例に」『講座明治維新 4 明治維新と外交』（有志社）査読無、pp.178-212、2017 年 10 月
16)横山伊徳「太平洋世界と近世日本の変容」『日本学研究叢書 24　鎖国と開国　近世日本の内
17)と外』査読無、pp.65－121、2017 年 9 月
18)原山浩介「ハワイ立州の周辺にみるポリティクス」『現代思想』2017 年 9 月号、査読有、219～225 頁、2017 年 9 月。
19)麓　慎一「ロシアの環太平洋政策と日本」『歴史と地理』710、査読無、1～11 頁、2017 年
20)須田牧子「原本調査から見る豊臣秀吉の冊封と陪臣への授職」黒嶋敏・屋良健一郎編『琉球史料学の船出』査読無、勉誠出版、2017 年 5 月
21)小野将「新自由主義の時代と歴史学の課題Ⅱ」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題　1 新自由主義時代の歴史学』査読無、績文堂出版、2017 年 5 月
22)保谷徹「ナダール撮影によるガラス原板写真とプチジャン司教の肖像写真―フランス所在古写真調査報告」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』77、査読無、2017 年 4 月
23)東俊佑「安永 7 年の蝦夷地奉行定書について」『北海道博物館研究紀要』2、15-24 頁、査読無、2017 年 3 月。
24)谷本晃久「蝦夷通詞・上原熊次郎の江戸―御書物同心への異動と天文方出役をめぐって―」（『北海道大学文学研究科紀要』第 151 号、査読無、pp.未定、2017 年 3 月）
25)岡美穂子「アジアにおけるザビエルと周辺の人々」鹿毛敏夫編『描かれたザビエルと戦国日本―西欧画家のアジア認識―』勉誠出版、査読無、2017 年。
26)Taizo Yamada: Detection of topics from newspaper and its analysis of temporal variations in regions, proc. of PNC2017, pp.44-49, 2017. 10.23919/PNC.2017.8203520（査読有）
27)山田太造「東京大学史料編纂所の編纂とその事業にともなうデータベース」，国立歴史民俗博物館編『〈総合資料学〉の挑戦』，査読無、吉川弘文館，pp.98-113，2017.
28)保谷　徹「京都博覧会と市田左右太のガラス原板写真―オーストリア古写真調査報告③―」『東京大学史料編纂所付属画像史料解析センター通信』73 号、査読無、4-13 頁、2016 年
29)彭　浩「唐船貿易の統制と売込人」、藤田覚編『幕藩制国家の政治構造』吉川弘文館、査読無、212-235 頁、2016 年
30)横山伊徳「オランダ貿易会社本社文書内日本関係文書記述目録（仮）」、『東京大学史料編纂所研究紀要』26 号、査読無、19-49 頁、2016 年
31)OKA Mihoko, “Elusive Islands of Silver: Japan in the Early European Geographic Imagination”, Karen Wigen, Sugimoto Fumiko, Cary Karakas eds, Cartographic Japan: A History in Maps, Chicago University Press, 査読無、 pp.20-24, 2016.
32)HOYA Toru, "Les circonstances politiques japonaises en 1864, annee de Conclusion du Traite d’amitie et de commerce nippo-suisse.” (“Imagine Japan”Musée d'ethnographie, Neuchatel, Switzerland, 査読無、p.46-55, 2015.
33）保谷　徹「開国と幕末の幕制改革」、岩波講座『日本歴史』14、近世 5、査読無、37-72 頁、岩波書店、2015 年
34)彭　浩「順治九年「南京船」の長崎渡航に関する一考察 ： 中国第一歴史档案館所蔵清朝档案の解析から―」、『東京大学史料編纂所研究紀要』25、査読無、29-38 頁、2015 年）。
35)田村将人・鈴木健治「史料紹介：ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所にある樺太旧蔵書について」、『北海道・東北史研究』10 号、査読無、1-8 頁、2015 年
36)麓　慎一「近世後期における北方の境界問題」『日本史研究』630、査読有、24-38 頁、2015 年
37)岡美穂子「パリへ渡ったキリシタンの聖画―外海の聖母マリア画が語るもの―」『日本歴史』799 号、17－19 頁、2014 年 12 月

38)麓　慎一「明治政府の対外政策―樺太・朝鮮・台湾―」『東京大学史料編纂所研究紀要』25 巻、査読無、170-180 頁、2014 年
39)岡美穂子「大坂・京都のキリシタン－受容における特徴から－」『適塾』47 号、大阪大学適塾記念センター、査読無、82-90 頁、2014 年 12 月
40)岡美穂子「パリへ渡ったキリシタンの聖画―外海の聖母マリア画が語るもの―」『日本歴史』799 号、査読無、17－19 頁、2014 年 12 月
41)Mihoko OKA, Portuguese Merchants from Macao in the 19th Century Japan and their Family Networks, Connected Histories-trading networks across the Eurasian continent; structure, practices and socio-economic impact 巻数なし、査読有、1-9 頁、2014 年 11 月、

〔学会発表〕（計 174 件）うち主要なもの 33 件（自己開催の国際研究集会を除く）
1）岡美穂子「16 世紀後半の南薩摩諸港と南蛮貿易」公開シンポジウム「アジアの海を渡る人々:16・17 世紀の渡海者」立教大学、2019 年 2 月
2）須田牧子「遣明船の終焉と「倭寇図巻」の世界」、公開シンポジウム「アジアの海を渡る人々:16・17 世紀の渡海者」、個別報告、立教大学、2019 年 2 月 2 日。
3）OKA Mihoko, Two Mysterious Merchants Named Itami in Sakai, Asian Association for World Historians, January 2019
4）東　俊佑「日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向：1264-1867」サハリン樺太史研究会 10 周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」：2018 年 12 月 1 日
5）佐々木利和・谷本晃久「ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所所蔵宮古方言採集手帖について」危機的な状況にある言語・方言サミット宮古島大会（文化庁）：2018 年 11 月 24 日
6）OKA Mihoko,The Christianity as a sect of new Buddhism –focusing its appearance and adaptation policy-Japan’s Long Past in Cambridge History of Japan, Michigan University (Ann Arbor), October 2018
7）OKA Mihoko,The Forgotten Event “the Affair of Paulo dos Santos”-the process for expulsion of Portuguese from Japan in 1630s-, International Congress -EurasiaTrajeco-GECEM Project-　Universidad Pablo de Olavide, Seville, October, 2018
8）須田牧子「日本所在明国兵部箚付原本について」第 6 回東アジア史料研究編纂機関協議会国際学術会議、個別報告、於中国社会科学院、2018 年 10 月 15 日。
9）シェプキン,ワシーリー「ロシア科学アカデミー東洋古典籍研究所所蔵の私的コレクションとその日本研究に対する貢献」EAJRS 第 29 回日本資料専門家欧州協会カウナス大会：2018 年 9 月
10）OKA Mihoko, Nanban Trade and Shuinsen Trade in 16th and 17th Century Japan-focusing on their players/actors- O Congresso Internacional subordinado ao tema Poder, Globalização, Território e Sociedades Ibero-Americanas da Modernidade à Contemporaneidade, 2018.7 , University of Evora
11）須田牧子「『倭寇図巻』再考」、「真贋之間―文献史学与美術史学的対話」ワークショップ、個別報告、於国立台湾師範大学芸術史研究所、2018 年 7 月 14 日。
12）OKA Mihoko,In the Shadow of the Successful Missionary Work of the Society of Jesus: Japanese Irumans and Dojukus, 22nd Asian Studies Conference Japan, ICU, Tokyo, June, 2018
13）Taizo YAMADA: Data Sharing Method Related to Japanese Historical Materials by Japanese Calendar Cording, International Workshop on Spatio-Temporal Knowledge, Center for GIS, Research Center for Humanities and Social Sciences, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, May 24 2018.
14)OKA Mihoko,Japanese Christian Merchants in the Portuguese Nagasaki Trade from the 16th to 17th Centuries-, International Symposium "Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c.1550-1850, April 2018
15)Shoichiro Hara: Glocal Information Platform for Area Studies, HeKKSaGon Multidisciplinary Joint Workshop toward Fusions between Data and Mathematical Sciences, 2018-04-11
16）Taizo Yamada: Flow and Utilization of Japanese Historical Data in the Historiographical Institute, International Symposium "DIGITALHUMANITIES AND DATABASES", 2018.3.16, Sophia University
17)五百旗頭薫「From Perry to War with China」米国スタンフォード大学 Walter H. Shorenstein Asia Pacific Research Center (APARC)のシンポジウム、2018 年 3 月 6 日
18)原山浩介　　Communism and Revisionism: The Story Derived from a Nisei Soldier’s Experience in Yenan　ミシガン大学 The Origins of Japanese Studies at Michigan 2017 年 11 月 29 日
19)松井洋子「江戸時代の日本とオランダ」（国際学士院連合第 89 回総会テーマ・セッション『近世東アジアにおける宗教・通商・国際関係』　2017 年 10 月 24 日　於日本学士院総会議場）
20)山田太造，谷昭佳，保谷徹「（パネル）東京大学史料編纂所による前近代日本史史料の調査に基づく史料画像のデジタル化とその保存」，iPRES2017，2017 年 9 月 25 日, Kyoto University.
21)谷本晃久「サハリンで記された最古の文書と漆器」サハリン州立郷土博物館館研究会（於：サハリン州立郷土博物館）、2017 年 9 月
22)OKA Mihoko,The Commodity in the Nagasaki-Macau Trade from the Late 16th to the Early 17th Century, ICAS CHAING MAI, panel: Japan in the Age of Civil Wars and Trading Networks in Asia-focusing on import and export of military supplies, July 2017

23)原山浩介, “Koji Ariyoshi in the context of Japanese history,”ハワイ大学マノア校 NINJAL-NMJH-UHM Workshop: Underdescribed Languages and Histories: Linguist’s and Historian’s Challenges, 2017 年 5 月 18 日
24)山田太造「東京大学史料編纂所における日本史史料の収集とその管理」，東アジア日本研究者協議会第一回国際学術大会，2016 年 11 月 30 日，Songdo Convensia, Incheon, Korea.
25)彭　浩「近世港町長崎の都市空間－唐船貿易との関連から」都市史学会大会、大阪歴史博物館、2016 年 12 月 11 日)。
26)OKA Mihoko, ”Nanban Trade and Shuinsen Trade in 16th and 17th Century Japan”, The 4th EURASIA TRAJECTO conference , EHESS, Paris, 2016 年 11 月 18 日
27)保谷　徹「在外日本関係史料の調査・収集と研究資源化の研究—日本学士院ＵＡＩ関係事業との関わりで—」第 5 回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議、東京大学、2016 年 11 月
28)保谷　徹「史料編纂所の海外史料調査と研究資源化事業（日露関係を中心に）」ロシア国立経済高等学院国際シンポジウム「ロシアと日本側の史料に見る日露関係」サンクトペテルブルク市、2016 年 10 月
29)佐々木利和・谷本晃久「コレクション形成史の可能性：ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所所蔵日本史料について」(EAJRS 第 27 回日本資料専門家欧州協会ブカレスト大会, 2016 年 9 月 14 日）
30) 谷本晃久「THEMES AND PERSPECTIVES AROUND THE CONSTRUCTION OF EARLY MODERN KURILE HISTORY」（AAS 米国アジア学会 2016 年次研究大会、ワシントン州立コンベンションセンター、2016 年 4 月 2 日：Panel title:The Mist-Covered Borderland—Early Modern Ainu-Japanese-Russian Relations in Ezo）
31)PENG Hao,“Business Intermediaries between Foreign Traders and the Domestic Market: the Nagasaki Kaisho and Sales Brokers in Early Modern Japan”, Association for Asian Studies, 2015 Annual Conference Chicago, 2015 年 3 月.
32)HOYA Toru,“A Military History of the Boshin War“（‘WFU Conference: The Civil Wars of Japan’s Meiji Restoration & National Reconciliation: Global Historical Perspectives‘, Wake Forest University, Winston-Salem, USA.　2015 年 1 月）
33)谷 昭佳「歴史史料写真の研究資源化－ガラス乾板を中心にして－」東アジア史料研究編纂機関国際学術 会議（第 4 回)、韓国果川市国史編纂委員会、2014 年

〔図書〕（計 18 件）うち主要なもの 14 件
1）佐々木利和・谷本晃久（編）北海道大学アイヌ・先住民研究センター古文書プロジェクト報告書５『国立公文書館内閣文庫所蔵「蝦夷語集」索引　アイヌ語-日本語編／日本語-アイヌ語編』：北海道大学アイヌ・先住民研究センター：2019 年 3 月, 総ページ数：315 頁・302 頁
2）岡美穂子編『東京大学史料編纂所研究成果報告書 2018-5　ポルトガル・トルレ・ド・トンボ国立公文書館所蔵『モンスーン文書』の研究と目録（vol.1-vol.30)』、全 124 頁、2019 年 3 月
3）OKA Mihoko edit.A Maritime History of East Asia (co-edition with Masashi Haneda), Kyoto University Press & TPP, pp.1－372, Feb 2019
4）Gregoire Mayor/Akiyoshi Tani,”Japan in Early Photographs, The Aime Humbert Collection at the Museum of Ethnography, Neuchatel,” MEN, arnoldsche ART PUBLISHERS, 2018.全 292 頁。
5）保谷徹ほか責任編集、古写真研究プロジェクト編『高精細画像から甦る 150 年前の幕末・明治初期日本—ブルガー＆モーザーのガラス原板写真コレクション—』洋泉社、2018 年 3 月
6）奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点』上・下（吉川弘文館）2018 年 3 月
7）保谷徹（責任編集）東京大学史料編纂所・ロシア国立海軍文書館編『ロシア国立海軍文書館所蔵日本関係史料解説目録２』サンクトペテルブルク市、2017 年 12 月
8）Щепкин В.В（シェプキン，ワシーリー)、Северный ветер: Россия и айны в Японии XVIII века（北からの風：18 世紀日本におけるロシアとアイヌ)、モスクワ、全 391 頁、2017 年 7 月
9）佐々木利和・谷本晃久編『北海道大学アイヌ・先住民研究センター古文書プロジェクト報告書４『国立公文書館内閣文庫所蔵「蝦夷語集」利・貞　影印・翻刻』』全 173 頁、2018 年 3 月
10）岡美穂子『大航海時代の日本人奴隷』中央公論新社、全 201 頁、2017 年 4 月
11）須田牧子編『「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ』、勉誠出版、全 528 頁、2016 年
12）彭　浩『近世日清通商関係史』、東京大学出版会、全 309 頁、2015 年
13）東京大学史料編纂所編（須田牧子責任執筆）『描かれた倭寇 「倭寇図巻」と「抗倭図巻」』、吉川弘文館、全 112 頁、査読無、2014 年）
14）保谷　徹共編著『山口県史』七、第四部海外史料（解題・解説・史料翻訳)、865-1026 頁、2014 年 6 月

〔産業財産権〕○出願状況（計０件）/ ○取得状況（計０件）
※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：横山伊徳
ローマ字氏名：Yokoyama Yoshinori
所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編纂所
職名：教授
研究者番号（8 桁）：90143536
研究分担者氏名：松井　洋子
ローマ字氏名：Matsui Yoko
所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編纂所
職名：教授
研究者番号（8 桁）：00181686
研究分担者氏名：小野　　将
ローマ字氏名：Ono Sho
所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編纂所
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：70272507
研究分担者氏名：岡　美穂子
ローマ字氏名：Oka Mihoko
所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編纂所
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：30361653
研究分担者氏名：須田　牧子
ローマ字氏名：Suda Makiko
所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編纂所
職名：助教
研究者番号（8 桁）：60431798
研究分担者氏名：山田　太造
ローマ字氏名：Yamada Taizo

所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編纂所
職名：助教
研究者番号（8 桁）：70413937
研究分担者氏名：五百旗頭　薫
ローマ字氏名：Iokibe Kaoru
所属研究機関名：東京大学
部局名：大学院法学政治学研究科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：40282537
研究分担者氏名：柴山　　守
ローマ字氏名：Shibayama Mamoru
所属研究機関名：京都大学
部局名：国際戦略本部
職名：研究員
研究者番号（8 桁）：10162645
研究分担者氏名：原　正一郎
ローマ字氏名：Hara Shoichiro
所属研究機関名：京都大学
部局名：東南アジア地域研究研究所
職名：教授
研究者番号（8 桁）：50218616
研究分担者氏名：谷本　晃久
ローマ字氏名：Tanimoto Akihisa
所属研究機関名：北海道大学
部局名：文学研究科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：20306525
研究分担者氏名：原山　浩介
ローマ字氏名：Harayama Kosuke
所属研究機関名：国立歴史民俗博物館
部局名：歴史研究系
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：50413894
研究分担者氏名：佐藤　雄介
ローマ字氏名：Sato Yusuke

所属研究機関名：学習院大学
部局名：文学部
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：20624307
(2)研究協力者　（主なメンバーのみ）
研究協力者氏名：箱石　大
ローマ字氏名：Hakoishi Hiroshi
研究協力者氏名：岡本　真
ローマ字氏名：Okamoto Makoto
研究協力者氏名：谷　昭佳
ローマ字氏名：Tani Akiyoshi
研究協力者氏名：東　俊佑
ローマ字氏名：Azuma Shunsuke
研究協力者氏名：麓　慎一
ローマ字氏名：Fumoto Shinichi
研究協力者氏名：佐々木利和
ローマ字氏名：Sasaki Toshikazu
研究協力者氏名：シェプキン、ワシーリー
ローマ字氏名：Schepkin,Vasilii
研究協力者氏名：クリモフ、ワジム
ローマ字氏名：Klimov, Vadim
研究協力者氏名：チェルニャフスキー、セルゲイ
ローマ字氏名：Cherniavskii, Sergey
研究協力者氏名：スミルノフ、ワレンチン
ローマ字氏名：Smirnov, Valentin
研究協力者氏名：彭　浩
ローマ字氏名：Peng Hao